

事業名	競技スポーツ環境の充実及び支援	評価実施者	所 属	スポーツ振興室
			職・氏名	室長・坪田 健一

主要事業の概要	開始年度	根拠法令等				スポーツ振興基本計画(スポーツ振興法)	特定財源
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他〔 〕					
	目的	各種スポーツイベントの推進、各種施設の管理と有効活用を図るほか、スポーツ著名人による実技研修会の開催や各種全道全国大会の誘致により、一流選手のプレーを直接観ることや、競技に参加することで、競技力向上や競技スポーツへの興味・関心を高める機会を提供し、底辺の拡大を図る。					
事業内容	市は、(財)滝川市体育協会と連携し、北海道室内棒高跳大会および日本ハム野球教室など毎年継続開催することで、市民(特に子どもたち等若い世代)に一流選手のプレーを観戦してもらい関心を高めてもらったほか、直接実技指導を受けてもらい、技術の向上を図った。また、地域の自然環境を生かしたスポーツ・レクリエーションの場として、夏は海洋性スポーツが体験できる施設・海洋センターで子どもたちにカヌーやヨットを通して感動体験を提供したほか、冬は北電スロープやスケートリンクで冬期間の体力づくりを図る機会を提供した。						

事業コスト	区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	特記事項
	事業費(A)						
	うち一般財源						
	人件費(B)						
総コスト(A)+(B)	0	0	0	0	0	0	※単位:千円

実績と成果	区分		単位	H17	H18	H19	H20	H21	左記以外の20年度の実績・成果	
	事業の実績(アウトプット)	1	北海道日本ハム野球教室	人	102	79	88	50		
		2	北海道中学校軟式野球大会	人	600	850	800	450		
		3	北海道室内棒高跳大会	人	120	120	120	120		
	事業の成果(アウトカム)	1	海洋センター利用者数	人	12,696	15,420	18,160	15,677		プロ野球イースタンリーグ 3,160人
		2	北電スロープ利用者数	人	6,457	7,426	6,986	6,390		全道高校総体サッカー選手権大会 1,400人
		3	スケートリンク利用者数	人	2,904	3,335	2,499	1,858		全道自治労職員サッカー選手権大会 1,100人 全道一生涯野球大会 775人 高野連空知支部軟式野球大会 1,137人 北海道高等学校剣道選手権大会 450人

評価項目	点数	判定及び説明・考察			
1 適応性有効性	10	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
		②事業の目的に照らして効果的な手法か。	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
(財)滝川市体育協会および加盟団体等と連携し、プロ野球イースタンリーグの開催のほか、全国・全道大会を12大会開催した。(平成19年度は14大会開催)また、海洋センター利用者数は、全国2位で特A評価を受賞し、平成15年度からの6年連続受賞となった。さらに、冬期間スポーツとしては北電スロープとスケートリンクを開設し、市内の子どもたちの冬の健康・体力づくりの場として提供した。					
2 目標達成度	10	③目標の水準は適切か。	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
		④計画通りに目標を達成できたか。	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
日本ハムのプロ選手による野球教室での実技指導や第5回北海道室内棒高跳大会により、小学生から一般の市民に実技指導を受ける機会やトップアスリートの観戦する機会を提供した。 また、軟式野球、陸上競技、水泳競技、バドミントン競技、カヌー競技で10名・1団体が全道優勝し、全国大会に出場した。					
3 経済性	4	⑤コストは縮減しているか。	□ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1		
		プロ野球イースタンリーグの開催については興行用料金を徴収した。また、コスト縮減や事務の効率化に努めたほか、体育協会ホームページで情報発信し、合宿誘致を図った。合わせてサイクリングターミナルの斡旋をするなど効率的な利用促進を行った。			

総合評価	合計	24	ランク	上記評価を踏まえた事業の課題	①老朽化するスポーツ施設の年次的計画整備が必要。 ②各競技団体と連携した全道・全国大会に出場できる選手の指導・養成が必要。 ③(財)滝川市体育協会加盟団体の育成支援・強化が必要。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピートアップ □ 検証 □ 現状維持
	100点換算	96	A		
		/25	(A~E)		
		/100			

【評価点数】

5 : 十分できている 4 : できている 3 : ほぼできている 2 : あまりできていない 1 : できていない

【総合評価ランク】

- A : 86点以上 優れた取組が多く、十分に成果が上がっている
- B : 71~85点 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
- C : 56~70点 一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある
- D : 41~55点 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
- E : 40点以下 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

◎外部評価委員の評価・意見等

評価項目	点数	判定				点検・評価に関するコメント	
1 適応性有効性	10	①	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1			・現在の設備では、全道大会を開催できない種目もあります。(例としてバスケットボール大会等)	
		②	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
2 目標達成度	10	③	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1			・施設の修繕については、市の予算の関係で難しい面もありますが、できるだけ年次計画的に整備してほしい。	
		④	■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
3 経済性	4	⑤	□ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
合計		24	100点換算	96	ランク	A	
		/25	/100			・たくさん施設があり大変だと思いますが、できるだけ整備を進めてほしい。いつまでもそのままでは利用者が困ります。	

平成6年度～平成20年度 海洋センター利用状況表

年度	稼働日数	大会及び 行事参加者	教室 参加者	海洋クラブ	市内団体利用		その他(市外)団体利用		個人利用者(有料)		市内小中 土曜無料	その他	合計
					件数	利用者数	件数	利用者数	小中学生	高校一般			
6	78	2,045	540			1,066	2	212	219	107		926	5,115
7	132	2,008	317			1,376	12	930	497	253		1,047	6,428
8	133	2,094	414			2,139	11	1,017	632	517		884	7,697
9	137	1,147	136			1,967	49	4,272	308	746		539	9,115
10	131	917	130			1,074	59	5,116	579	1,347		1,249	10,412
11	133	635	0			3,241	82	8,071	620	934		922	14,423
12	126	646	0			1,079	75	9,100	411	664		1,105	13,005
13	130	129	0	322	10	501	97	10,377	384	614		1,082	13,409
14	131	65	120	198	22	1,473	93	12,231	412	532	49	847	15,927
15	130	289	5	154	16	1,549	81	9,915	253	358	281	624	13,428
16	133	162	71	187	15	1,215	81	10,663	279	480	188	676	13,921
17	129	291	252	165	12	1,212	67	9,754	211	273	101	437	12,696
18	135	633	339	485	9	1,099	74	10,316	226	367	264	1,691	15,420
19	140	1,140	0	1,174	12	1,237	79	11,399	205	312	258	2,435	18,160
20	139	984	84	1,257	5	537	84	10,296	216	337	195	1,771	15,677

△ / △ 156 + 84 + 83 △ 7 △ 700 15 △ 1103 + 11 + 25 △ 63 △ 667 △ 2483

平成 6年度海洋センター利用者	5,115 人		平成 17年度海洋センター利用者	12,696 人	(前年比 8. 8%減)
平成 7年度海洋センター利用者	6,428 人	(前年比 25. 6%増)	平成 18年度海洋センター利用者	15,420 人	(前年比 21. 4%増)
平成 8年度海洋センター利用者	7,697 人	(前年比 19. 7%増)	平成 19年度海洋センター利用者	18,160 人	(前年比 17. 8%増)
平成 9年度海洋センター利用者	9,115 人	(前年比 18. 4%増)	平成 20年度海洋センター利用者	15,677 人	(前年比 13. 7%減)
平成 10年度海洋センター利用者	10,412 人	(前年比 14. 2%増)			
平成 11年度海洋センター利用者	14,423 人	(前年比 38. 5%増)			
平成 12年度海洋センター利用者	13,005 人	(前年比 9. 8%減)			
平成 13年度海洋センター利用者	13,409 人	(前年比 3. 1%増)			
平成 14年度海洋センター利用者	15,927 人	(前年比 18. 7%増)			
平成 15年度海洋センター利用者	13,428 人	(前年比 15. 6%減)			
平成 16年度海洋センター利用者	13,921 人	(前年比 3. 7%増)			

■ H20 年度利用者数減の原因 (△2,483 人)

1. 市内団体数減 (△700 人)
 - ・ H19 年度より小学校利用 5 校減 (雨天等での利用中止)
2. 市外団体数減 (△1,103 人)
 - ・ 1 校 150 人以上の学校が、H19 年度より 3 校減
 - ・ 一般団体数 4 団体減 (うち自然教育促進会 458 人減)
3. その他利用減 (△667 人)
 - ・ H19 年度マスメディアの取材が多かったのが、H20 年度は例年並みとなる。

昨年より 2,483 人減

ス空知

2009年(平成21年)
1月17日土曜日
発行所
空知新聞社
滝川市緑町1-3-27
TEL0125-22-1333 FAX0125-22-2206

Eメール press_server@pressorachi.co.jp

不要車 低年式車 残債あり 事故車

高価 **カートリ** 売って 買って

驚きの査定!! **カーショッスイノウエ** さらに査定で、別の車種で、売ってください。

手放す前に、ぜひ一度ご相談ください 有限会社 井上自動車ボデー 滝川市東町4丁目94番6号

0125-24-3070

合宿団体過去5年で最多

2つの体育施設好評 1月だけホームページでPR奏功 で5件

【滝川】滝川スポーツセンターと滝川市青年体育センターで合宿をする団体が増加傾向にある。20年中は12団体延べ1844人となり、19年中と比べても団体数は同じだが人数は798人と1046人の増。特に今年1月だけで5件の申し込みがあり、1月の過去5年間の受け入れ状況をもっとも多いという。背景には、ホームページによる広範囲の周知徹底のほか、利用者からも体育館施設が2つ連なっているから良いなどと滝川ならではの施設環境が好評を得ているようだ。数年連続して利用している団体もあり、改めて滝川市の体育施設環境に注目が集まっている。

滝川スポーツセンター周辺

管理する滝川市体育 札幌市内のサッカー協会によると、1月は クール2つと棒高跳び

強化合宿、静内のソフトテニス少年団、札幌市内の中学校ソフトテニス部の5つが合宿を敢行。



合宿団体が増えている滝川の体育施設

昨年と比べると2団体多く延べ人数も1100人と6200人の増。サッカースクールと棒高跳びはここ数年行っているが、静内と札幌のソフトテニスに初めての滝川合宿で、ホームページなどで滝川市を選定したとみられる。この背景には、同協

会が平成18年からホームページを立ちあげ、各種情報を発信。1日30〜50のアクセスがあり、施設紹介コーナー

ではサイクリングターミナルとの併用で合宿に最適な施設環境をPRした。

そのかいあってか、年々利用状況も増え、札幌市内のサッカースクールもホームページを見てから利用し、以降3年連続で合宿を行っているという。

また、利用者からの声では、札幌や旭川では体育施設を確保するのが困難で、近場の滝川を選ぶ傾向があり、何よりも2つの体育館をもつことで大人数でも練習場所が確保でき

ることが最大のメリットとなっている。

このほか、滝の川運動公園は各種運動施設が揃っており、市内施設の優遇券も発行。近隣では新十津川のサライとも提携し、宿泊場所のみをサライにするサービスも取り入れたのが奏功している。

夏休みには高校のバスケット部なども新たに合宿に訪れるようになっており、同協会では「今後もより一層のPRに力を入れていきたい」と話している。

【佐藤学】